

両津港



新潟県交通政策局港湾整備課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

☎025-280-5466

URL : <http://www.pref.niigata.jp/kowanseibi/>

1. 概況

〈夷港と呼ばれた時代〉

本港は日本で最大の島である佐渡ヶ島の両津湾の入江にあり、大佐渡、小佐渡山脈に抱擁され、北東は日本海に面し、背後には国仲平野を控えている。

当港は、古くは夷港と呼ばれ、磯が穏やかで暗礁がなく船がかりにきわめて便利であった。春から秋にかけて、奥羽・越後・北陸・関西等の廻船や他船の往来が激しく、安永7年(1778年)に年貢米他国積出港に指定され、天明元年(1781年)に年貢米1万4千石を大阪に回されてより、嘉永3年(1851年)頃まで、毎年1万5千石程度大阪に回されていた。慶応3年(1867年)英国公使パークスが随員と夷港に上陸し、夷港を新潟港の補助港とすることについて調査が実施され、新潟開港にともなう補助港として外国船係留場に指定された。

明治4年(1871)、新潟税関夷出張所が独立、夷税関が開設され、新潟～夷間に蒸気船が就航した。またこの年我が国造船史上初めての鉄船「新潟丸」が、夷の加茂湖岸でイギリス人の手によって建造されたことは意義深いものである。明治11年(1878)新潟、夷間に定期船が就航し、政府は同年に1万円の巨費を投じて防波柵や木柵波止場を築造して近代的な港に改造し、港の使用価値を大きくした。明治21年(1888)7月開港港則法発布により、横浜・神戸・大阪・長崎・函館・新潟の6港とともに選定され、大正6年(1917)3月水路部告示第23号で従来の夷港を両津港と名称を改めた。

昭和26年(1951)9月新潟県が港湾管理者となり、重要港湾に指定され、歴史の島、佐渡の表玄関として名実ともに重要な位置を占めるに至った。

両津港の整備計画は、昭和43年度(1968)からの5カ年計画に続き、昭和46年度(1971)からの5カ年計画によって南埠頭が完成し、埠頭機能増強のため臨港道路・連絡架橋「両津大橋」、フェリー上屋の完成等により、定期船の発着が昭和47年(1972)より、いままでの中央埠頭から南埠頭に移転された。現在、両津～新潟間には、「おけさ丸」(5,862G/T)・「ときわ丸」(5,380G/T) が就航し、その他ジェットフォイル3隻を含め、夏期最盛期には新潟発両津着18便、両津発新潟着18便が運航しており、平成25年の乗船客数は約130万人となっている。取扱貨物量は、フェリーを中心に島内需要物資等約300万トンとなっている。

平成10年(1998)3月に、佐渡島における島内消費物資等

の流通拠点として船舶の安全航行を図るための機能を確保するため、港湾計画を改訂した。今後も上越新幹線及び、関越・北陸・磐越自動車道などの高速交通網の整備により観光客の増加が見込まれ観光佐渡の表玄関として、また島内の流通拠点として大きな役割を果たしていくことが期待されている。